

安全で快適な漁業労働を実現するための研究

— 作業台を使って漁獲物仕分け作業を快適に —

水産業システム研究センター

研究の背景・目的

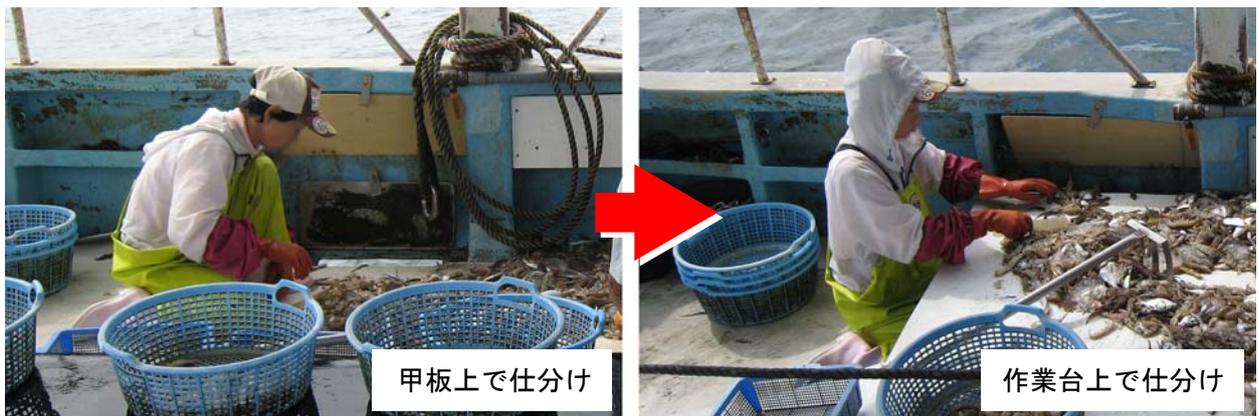
漁業者の高齢化や後継者不足が深刻な問題となっています。高齢者でも無理なく働いて、さらに若者が魅力を感じるような、安全で快適な労働環境を実現する必要があります。底びき網漁業では一般に、甲板上に置かれた漁獲物を手作業で仕分けします。このとき漁業者は、しゃがんで（あるいは膝をついて）上半身を前かがみにした姿勢で、長時間の作業を行います。このような姿勢は、腰痛などの発症リスクを高めるため、早期の改善が必要です。

研究成果

愛知県・豊浜漁協所属の小型底びき網漁船を対象に、漁船の特徴に合わせた作業台を試作しました。作業台を使うと、前かがみであった上半身の姿勢が改善され、良好な姿勢で仕分け作業ができるようになりました。

波及効果

作業台の導入は、仕分け作業が必要なすべての漁業で検討する価値のある改善方策であり、今回の成果はその参考事例になります。仕分けは時間のかかる手作業であり、これを安全、快適、かつ効率的に行えるようにすることが重要です。条件によっては、作業台の導入によって作業速度も改善され、漁獲物の鮮度向上に寄与することも期待されます。



作業台を使用することで良好な姿勢での作業が可能となる

※本研究の実施にあたっては愛知県・豊浜漁業協同組合の皆様にご協力いただきました。
※本研究は水産庁・沿岸漁業現場対応型技術導入調査検討事業の一環として実施しました。

（生産システムタスクグループ：高橋秀行・佐伯公康・渡辺一俊）